

博物館だより

1995.1
第21号

大津市歴史博物館



鶴図 円満院祐常筆 (本館蔵)

あけまして

おめでとございませす

輝かしい新春をお迎えされたことと存じます。いつも大津市歴史博物館に対して格別のご厚情を賜り厚くお礼申しあげます。

当館は平成二年十月二十八日に開館して、ことしでいよいよ五周年目を迎えようとしています。昨年企画展として「西教寺と天台真盛宗の秘宝」、「横山大観・菱田春草展」、松尾芭蕉没後三〇〇年記念「芭蕉と近江の門人たち」、そのほか土曜講座も一〇回を開催しました。おかげさまでいずれも好評裡に終了することができ感謝しております。観覧者数も開館以来四五四、三二五人を数えています。

今年の企画展は四月二十九日から「街道が生んだ民画大津絵」、十月から「近江の古代史を掘る」、八年三月には「時衆の美術」を考えています。

ことしも多くの人々に親しまれる博物館をめざして館員一同力を合わせて努めたいと思っておりますので、一層のご指導をいただきますようお願い申し上げます。

大津市歴史博物館館長

木村 至 宏

新収蔵品展を開催

博物館においては、収蔵する資料の質と量がその館の展示活動の充実度を大きく作用すると考えられます。いずれの博物館においても、平素の資料収集活動が重視されるのはこのためでしょう。当館の場合、大津・近江の歴史にかかわりの深い資料を中心として収集をつづけています。資料収集には、購入による館蔵品の収集という方法のほか、市内外の方々から御寄贈をいただいたり、あるいは御寄託というかたちでお預けいただくケースも数多くあります。

平成四年春、それまでの収蔵品を一堂に会した企画展「湖都の彩り―館蔵・寄託の名品―」を開催いたしました。今回、それ以後の新規収蔵品を展示し、皆様に御覧いただきこうと考えました。内容は、絵画・書跡・工芸・歴史資料など多様なジャンルにわたり、文化史上貴重なものが少なくありません。十日ほどの短期間の展覧会ですが、少しでも多くの方々の御来館と、今後の資料収集活動への御協力をお願いいたします。

〈主な展示作品〉

・鶴図 円満院祐常筆（本館）
絹本着色 二幅

各一 一・〇×三・五・三寸

祐常（一七二三―一七三三）は関白二条綱平の養子。円満院に入り第五代門跡を継いでいます。円山応挙との深い親交が良く知られているように書画を好んだ人物であったようです。この作品は、鶴という、ありふれたモチーフのため、様式化された描き方に終わってしまいますが、そこからは、祐常が狩野派のオーソドックスな描法も、かなり学んだことがうかがわれます。

・人物花鳥押絵貼屏風 海北友松筆（本館）
紙本墨画 六曲一双

各一 一・五×三・八七・〇寸

湖国の生んだ桃山画壇の巨匠海北友松の作品。達磨図などの禪機画や琴棋書画図、花鳥図など複数の画題をあつかう水墨画を十二幅集めた押絵貼屏風です。筆数を極端にへらした減筆体の筆法を駆使した精神性豊かな作風に、彼の真骨頂をみる事ができます。落款の形態などから、その最晩年の作と考えられます。

・両界曼荼羅図（本館）
絹本着色 二幅

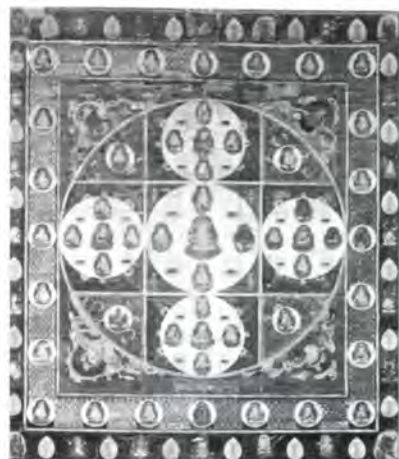
各一 三三・〇×一一三・五寸

密教における宇宙観をあらわす曼荼羅は、ふつう胎藏界曼荼羅と金剛界曼荼羅の二幅からなります。真言宗で用いられるものと天台宗系統のものとは図様がことなる場合があり、とくに金剛界を八十一体の尊像のみであらわしたいわゆる

海北友松の「人物花鳥押絵貼屏風」の一部分



うち風の屏貼絵鳥花人物
うち松友北海北磨図



うち金剛界の両界曼荼羅図

八十一尊曼荼羅は、第三代延暦寺座主となった慈覚大師円仁が中国からもちかえった作品に端を発するとみられ、天台系の曼荼羅といわれます。本図は南北朝室町初期の作例ながら、類例まれな八十一尊曼荼羅として貴重なものです。

・湖東金欄手人物文茶心壺 自然齋作（本館）
一口 高一四・〇 径六・九寸

茶心壺は煎茶用の茶葉入れ。湖東焼は江戸時代末期に彦根城下で焼かれたやきものですが、彦根藩の保護のもとで、まっしるな磁膚に金欄や赤絵をほどこした華麗な作品を次々と生み出しました。自然齋はその代表的な絵付師のひとり。唐人物を流麗な筆致で描いた気品ある姿に、その技量のほどがしのべれます。

「新収蔵品展」

会期 平成7年1月6日(金)〜16日(月)

(うち、休館日 1月9日)

会場 大津市歴史博物館企画展示室A

観覧料 常設展示と共通

▲特別陳列▼

縄文時代の天津を開催

わが国に大陸から水稲耕作がもたらされたのは、いまから約二、三〇〇年前といわれ、それ以降、農耕文化の段階にはいりました。それ以前は、山野での狩猟や木の実の採集、海浜・湖沼・河川での魚介類の採集を中心とした魚撈が生活文化の主体でした。この時代は「縄文時代」と呼ばれ、約一、二、〇〇〇年前からみられました。

縄文時代の天津の遺跡は、琵琶湖の湖岸付近の湿地帯や湖底、琵琶湖から唯一流出する瀬田川の川岸、川底等に約二・カ所分布しています。それらのなかには西日本最大級の淡水産貝塚である早期の石山貝塚、それに匹敵する規模をもつ早期から中期の粟津湖底遺跡、後期・晩期の集落や墓地、多種多様な出土品をみた滋賀里遺跡・穴太遺跡などがあり、全国的にも著名な遺跡となっています。

本展では、天津市内所在遺跡の出土品のうち、近畿地方縄文土器の編年基準となっている早期の石山式土器、晩期の滋賀里式土器をはじめ各種の土器、石器、骨角器、動物・植物遺体などや、最近発見された真野城遺跡・雄琴段々遺跡の出土品なども含めたバラエティーに富んだ資料や写真パネルを通して「縄文時代の天津」に人々が居住していたことを検証するとともにその当時の暮らしを紹介するものです。なおこれらの資料はふだんは各所に分散して保管されていることから一堂に会して観覧できる絶好の機会となりえるでしょう。

〔展示構成（展示予定資料）〕

本展覧会の展示構成と展示予定資料は、次のとおりです。展示件数一四七件、総数五〇四点です。

〔展示構成〕

- 一、貝塚は語る―石山貝塚―
- 深鉢形土器、石鏃・石匙等石器、ヤス・モリ等骨角器、貝層の剥ぎ取り転写 (四四点)
- 二、水中からのメッセージ―堂谷遺跡・粟津湖底遺跡―
- 深鉢形土器、石鏃・石匙等石器、ヤス・釣針等骨角器、火切弓等木製品 (二五九点)
- 三、湖辺ムラの表情―滋賀里遺跡・穴太遺跡―
- 深鉢形土器、浅鉢形土器、石鏃・石錐等石器、ヤス・モリ等骨角器 (二二三点)
- 四、今も限りなく発見される遺跡から―真野城遺跡・雄琴段々遺跡―



石山式土器
(石山貝塚出土/平安高校蔵)



土偶頭部
(粟津湖底遺跡出土/滋賀県教育委員会保管)

▲特別陳列▼

「縄文時代の天津」

会期 平成7年1月31日(火)～2月26日(日)
(うち、休館日 2月6・13・20日)

会場 大津市歴史博物館企画展示室B

観覧料 常設展示と共通

- 五、縄文人の装身具と折り―石山貝塚・滋賀里遺跡・粟津湖底遺跡―
- 結菌式堅櫛・耳栓・管玉・貝輪など装身具と土偶・岩偶・石棒 (六三点)
- 六、縄文時代体験コーナー―「縄文土器の文様をさぐる」―
- 縄文土器の器壁に施された押型文や捺糸文様などは施文具原体の回転・縄の押しつけによって施文されたことを検証する。

博物館の催しもの

■講演会

◇「縄文時代の天津」展記念講演会

(題名) 縄文人のくらし

(日時) 二月四日(土)

午後二時～三時三〇分

(講師) 千葉 豊

(京都大学埋蔵文化財研究センター)

(定員) 一〇〇名

■講座

◇「縄文時代の天津」展記念講座

(題名) 粟津湖底遺跡の発掘調査

(日時) 二月十一日(土)

午後二時～三時三〇分

(講師) 伊庭 功

(滋賀県文化財保護協会技師)

(定員) 一〇〇名

◇土曜講座

(題名) 正月のわら縄行事について

(日時) 一月二十一日(土)

午後二時～三時三〇分

(講師) 和田 光生(本館学芸員)

(定員) 一〇〇名

◇親子歴史講座

(題名) 「日吉御田神社の綱引き行事」見学会

(日時) 一月十五日(日)

午前十時～十一時三〇分

(講師) 和田 光生(本館学芸員)

(定員) 親子一〇組

博物館日記抄

9月29日
11月27日

- 9月29日 厚木市一行、小山耕一氏(NHK) 来館
30日 管理会議開く、西岡伸太氏(写真家) 来館
10月1日 第92回土曜講座「古代近江人物誌Ⅱ」(講師松浦俊和学芸員)
2日 JTB 近江歴史回廊近江戦国の道探訪一行 来館
4日 大阪女子大学外国留学生一行、上田正昭学長 来館
6日 松尾芭蕉没後三〇〇年記念企画展「芭蕉と近江の門人たち」開場式およびレセプション開く、今岡睦之上野市長・杉本孝夫大阪市副理事ら一四八名出席
8日 「芭蕉と近江の門人たち」一般公開、ギャラリートーク、花と緑のまちづくりシンポジウム開催される、親子歴史講座「石山周辺の史跡をたずねて」開く
10日 朴楯錬韓国尾尾市長ら15名来館
12日 ギャラリートーク、伊賀町文学研究会、大阪青山短期大学生27人 来館
13日 県新任教職員研修会開催される
15日 文化講演会講師田畑彦右衛門氏(三重県総合文化センター総長)・光華女子大学生85名 来館
16日 岐阜県立博物館友の会16名 来館
18日 比叡山中学郷土史クラブ25名・中野俊一氏(河出書房新社) 来館
19日 敦賀市文化財保護審査会14名・山梨県竜王町教育委員会 来館、ギャラリートーク
21日 朽木村歴史探訪会15名・鯖江市公民館37名 来館

22日 第94回土曜講座「古文書でたどる芭蕉の足跡」(講師樋爪修学芸員)、東京滋賀県人会一行 来館
23日 仏教大学四条センター受講生 来館
24日 歴史博物館第八回企画委員会開催
25日 村上尚三郎氏(仏教大学教授)・袋井市教育委員会 来館
27日 歴史博物館からNHK「おはよう日本」全国中継(芭蕉展について)、中国社会科学院考古研究所杜玉生氏 来館
29日 記念講演会「京・近江の蕉門たち」(講師山本唯一大谷大学名誉教授) 97名参加
30日 ふるさと芭蕉史跡めぐり130名 来館
11月2日 奥西保氏(義仲寺代表役員)、県調停委員30名 来館
3日 歴史博物館が94年施しの滋賀建築賞に選ばれる
5日 歴史教室「戦国時代の城跡をさぐる」開く
8日 大谷大学文学部文学科67名、県近畿人委員会協議会一行 来館
12日 親子歴史講座「遺跡の発掘調査を体験しよう」を開く
13日 企画展閉幕、観覧者九、〇二八名
19日 歴史教室「下阪本の歴史を探る」開く
24日 歴博前庭の松の古木虫害で伐採、惜しい
26日 歴史教室「東海道を歩く」
27日 NHK特別番組「芭蕉がなぜ近江に眠る」が放映される

博物館だより 第21号
発行日 平成七年一月一日
編集 大津市歴史博物館
発行所 大津市御陵町二二二

大津市歴史博物館
電話(〇七七五)二二二二〇〇代